

3. 重要な昆虫類と生息環境

(1) 重要な昆虫類と生息環境の選定基準及び価値区分

重要な昆虫類については、次の考え方によって選定した。ただし、昆虫の場合、微少なものが多く、普通種であっても一度発見されて再度採集されるまで数年を待たねばならないことはざらである。まして、希少種である場合、数10年を経た後に発見されることも少なくない。重要な種については、今回の調査で出現したか否かということだけで選定することには問題がある。従って、過去に記録がある種についてもそのことを明示した上で選定した。

① 福岡県レッドデータブック（福岡県RDB）に選定されている種

福岡県RDBのカテゴリー区分の内、本市からは絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足に選定されているコウチュウ類、チョウ類、他の昆虫類が発見されている。価値区分もこの順である。

② 本市をタイプロカリティとする種

本市からはコウチュウ類等の新種や新亜種が多数発見されている。その基準となつた標本をタイプ標本、または模式標本という。標本そのものは種または亜種の基準となる重要なものである。また、タイプ標本の採集地（タイプロカリティ）で採集された別個体の標本も遺伝的にタイプ標本に近いため、貴重なものとされる。

③ 学術的に貴重な種

昆虫の中でも、美しいチョウや大型のカブトムシ、クワガタムシ等の昆虫はよく知られているが、本市から記録されている大部分のコウチュウ類は体長が3mmに満たない微少な、そして地味な種が大部分である。しかし、本市から発見されているコウチュウ類には学術的に貴重な種が多数ある。

その価値については、全国的な希少種、局地的な種、分布の北限種等が考えられる。これらについては①及び②の種の大部分も含まれるので、ここでは①及び②の種を除いた種を選定した。その場合、①及び②の種の説明の中に、学術的価値も記述していく。

④ 分布を拡大していると思われる種

今回の調査では、以前にはおそらく分布しなかつたであろう南方系のコウチュウ類やチョウ類が発見された。これらの種は学術的な貴重種であつたり保全すべき種ではないが、本市の環境の変化（温暖化）を知る上でその指標となるものである。また、周辺地域では少ないものの、本市で局地的というほど広い分布が見

られる種も含めた。

⑤ 市民生活と関わりのある種

カブトムシやタマムシといった、いわゆる愛玩昆虫と考えられる種がある。これらについては、概ね人々の生活環境に近い場所に生息している。それだけに人の生活環境に左右されやすく、普通種であっても環境の変化によって直ちに絶滅に向かっていく。水棲昆虫のゲンゴロウやタガメ等が、農薬の使用や河川の改修等により絶滅に瀕するようになった例もある。普通種といつても注意深く生息状況を把握しておく必要がある。

(2) 宗像市の重要な昆虫類と生息環境

① 総括

(1) により、福岡県レッドデータブックに選定されている種18種、本市をタイププロカリティとする種16種、学術的に貴重な種44種、分布を拡大していると思われる種9種、市民生活と関わりのある種6種、計75種を選出した。尚、地図中の和名に付した番号は個票の番号である。

○「福岡県レッドデータブックに選定されている種」 【地図8-3-(1)】

城山から11種（市全体の61%）が知られている。これらは総て過去の記録であるが、いくつかは再発見の可能性がある。当地からこのように多くの種が知られるのは、過去の調査が最もよく行き届いていることと、スダジイを中心とする豊かな自然林を持つことに起因すると考えられる。

次に多い地域は、さつき松原等の海岸砂丘部で、1~4種が発見または記録されている。海岸砂丘特有のコウチュウ類が多い。

島嶼部からも1~3種が発見または記録されている。これは、本土側に比べ比較的自然林の状況がよいためと思われる。

城山を除く本土側では、許斐山のヒオドシチョウを除き、全く発見されなかつたし記録もない。

○「本市をタイププロカリティとする種」 【地図8-3-(2)】

最も調査の行き届いている城山から13種（市全体の81%）が知られるが、今回の調査では再発見できなかった。

島嶼部では2~5種が発見または記録されている。島嶼部や沿岸部では、暖地性の種が多い。

一方、城山を除く本土側では、多礼貯水池周辺で発見されたツツガタホソシバシムシだけである。

○「学術的に貴重な種」 【地図8-3-(3)】

記録種も含め城山から14種（市全体の31%）が知られる。城山は調査の行き届いた地であるが、今回の調査でも8種が発見され、内2種は新たな発見である。この地域の昆虫相の深さを感じられる。

次に多いのは島嶼部で、特に沖ノ島は記録種も含め11種（市全体の25%）に達する。しかも、内7種は市内の他の地域から発見されていない種である。

さらに、さつき松原等の、沿岸部、海岸砂丘部で、7種が発見または記録されている。海岸砂丘特有のコウチュウ類が多い。

その他、許斐山を始め他の調査地域からもそれぞれ数種が発見された。

○「分布を拡大していると思われる種」 【地図8-3-(4)】

今回の調査で確認された9種は市内に広い分布域を持っているものが多い。特に沿岸部には、暖地に生息する種が多く見られる。その特徴は、特に草崎半島では顕著に見られる。また、果樹害虫としてのモモチョッキリ等の分布拡大も見逃せない。

○「市民生活と関わりのある種」 【地図8-3-(5)】 【地図8-4-(1)～(6)】

いわゆる愛玩昆虫であるが、市民からのアンケートを基にしたため、同定がネックとなり、種が限定されてしまった。対象種として、6種をあげたが、少ないながら分布情報が得られた。市民からの情報では全体として減っているとの内容が多かったが、市民の関心が減っていると考えられる部分もあるであろう。

ここに示した種の他、クワガタムシ類やセミ類、キリギリスやコオロギ類などの秋の虫等も市内に広く分布しているものと思われるが未調査である。

地図【地図8-3-(1)～(5)】には記録や標本が現存する種、今回の調査で現認された種を示している。市民からの分布アンケートは地図【地図8-4-(1)～(6)】に示す。

② 重要な昆虫類と生息環境の個票

別紙に個票を示す。【重要な昆虫類と生息環境の個票】